

なご
和みの散歩道の会

■ データ（もの）

所在地 名古屋市千種区振甫町から田代町
の約 180m の区間

■ データ（活動）

所在地 名古屋市千種区田代町四観音道西
発足 平成 25 年

■ 講評

「和みの散歩道」は、住環境にネガティブな雰囲気をつくり出す高架下を、人にやさしい高架下へつくり変える取り組みとして、選考当初から委員の多くに注目された。以下に、その概要と特徴を記しながら評したい。

取り組みの地は、名古屋市千種区の日泰寺西側に位置し、歴史的資源と変化に富んだ地形が緑とともに残る閑静な住宅地の中にある。この地に都心部と東部郊外を結ぶ市道の最後の未開通区間として、上記高架が計画されたが、住環境悪化を危惧した住民らにより、10年にわたる工事差し止め訴訟が起こされる。住民側が敗訴し計画が再開されるにあたり、行政との間にできてしまった深い溝がどう埋められたのかを、この取り組みの大切な観点とした。

ポイントは、住民・大学・行政が協働で練り上げたデザイン、施工段階における住民の積極的な参加、竣工後も住民が維持する管理運営体制の3つ。いずれも計画再開以来、住民が主体となって取り組まれており、その過程でひとが繋がっていく様子が確認できた。コミュニティ道路としては、一定のレベルには達しているものの、平均的デザインではないかと思えるが、関係者が乗り越えてきた苦労話や立地性を鑑みれば、かけがえのない風景に見えてくる。

街中でしばしば見られる、巨大なコンクリートで覆われた高架下を、人から敬遠されたままの空間にさせないやさしさが、この取り組みからはにじみ出ており、特に一連の整備プロセスを高く評価した。
(谷田 真)



レンガを用いた曲線で歴史や水の流れを表した高架下



地域住民が協力して植えた植栽



レンガ積みの一部に地域住民も参加



地域の人や大学生などが、作品を出品



春と夏には、アートイベントを開催



高校生による演奏に
大勢が集まり賑わったオープニング



展望台の高さを現地で決定



ベンチ代わりに植栽帯のある
ポケットパーク

(写真：和みの散歩道の会)